

## 12303 生活習慣病・難病対策の推進

(主担当:保健衛生室 健康増進課・地域保健課・衛生指導課)

### 主な取組内容

- 1 原子爆弾被爆者の健康管理や各種手当の支給等を実施します。
- 2 難病患者およびその家族の QOL(生活の質)の向上をはかります。
- 3 県民に臓器移植に対する理解と協力を求めるため、啓発事業を行います。
- 4 休日ドナー登録をはじめとする骨髄バンク普及啓発およびドナー登録の推進をはかり、新規ドナー登録者の確保に努めます。

### 1 原子爆弾被爆者対策事業

原子爆弾被爆者の援護に関する法律に基づき、被爆者健康手帳所持者の健康管理のため、年2回の定期健康診断及び希望者に対してがん検診を実施した。

また、同法に基づく各種手当を対象者に支給した。

(1) 被爆者健康手帳所持者 54人 平成26年3月31日現在

	伊賀市	名張市
所持者数	18	36

(2) 被爆者健康診断受診状況

ア 定期健康診断受診者数

第1回 23人 (うち要精検者数 4人)

第2回 18人 (うち要精検者数 4人)

イ がん検診受診者数

平成25年度

	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	多発性 骨髄腫	大腸がん
受診者数	3	3	1	0	2	2
要精検者数	0	0	1	0	0	1

(3) 各種手当受給状況

平成26年3月31日現在

	医療特別 手当	健康管理 手当	保健手当 (一般)	保健手当 (増額)	介護手当	家族介護 手当	葬祭料
支給対象者数	1	49	0	1	0	3	2

## 2 難病対策事業

### (1) 特定疾患治療研究事業

特定疾患として指定された 56 疾患について、医療費を助成し、治療の促進を図るため、申請により特定疾患医療受給者証を交付した。また、症状が改善され、経過観察等一定の通院管理のもとで、著しい制限を受けることなく就労を含む日常生活を営むことができる者には、特定疾患登録者証を交付した。

#### ア 特定疾患医療受給者数

平成 25 年度(平成 26 年 3 月末まで)

疾患名		男	女	合計
総計		503	712	1,215
1	ベーチェット病	14	9	23
2	多発性硬化症	6	18	24
3	重症筋無力症	9	18	27
4	全身性エリテマトーデス	13	66	79
5	スモン	0	1	1
6	再生不良性貧血	9	7	16
7	サルコイドーシス	12	15	27
8	筋萎縮性側索硬化症	7	5	12
9	強皮症、皮膚筋炎又は多発性筋炎	21	82	103
10	特発性血小板減少性紫斑病	13	27	40
11	結節性動脈周囲炎	6	9	15
12	潰瘍性大腸炎	90	88	178
13	大動脈炎症候群	1	9	10
14	ピュルガー病	12	1	13
15	天疱瘡	5	4	9
16	脊髄小脳変性症	16	16	32
17	クローン病	24	14	38
18	難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0	0	0
19	悪性関節リウマチ	0	4	4
20	パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	79	135	214
21	アミロイドーシス	3	6	9
22	後縦靭帯骨化症	25	18	43
23	ハンチントン舞踏病	1	0	1
24	モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	4	18	22
25	ウェゲナー肉芽腫症	0	2	2
26	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	45	10	55
27	多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	10	7	17
28	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0	0	0

29	膿疱性乾癬	1	2	3
30	広範脊柱管狭窄症	8	6	14
31	原発性胆汁性肝硬変	6	31	37
32	重症急性膵炎	1	4	5
33	特発性大腿骨頭壊死症	8	6	14
34	混合性結合組織病	0	13	13
35	原発性免疫不全症候群	0	0	0
36	特発性間質性肺炎	6	2	8
37	網膜色素変性症	15	21	36
38	プリオン病	0	3	3
39	原発性肺高血圧症	1	6	7
40	神経線維腫症	2	1	3
41	亜急性硬化性全脳炎	0	0	0
42	バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0	0	0
43	特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	2	5	7
44	ライソゾーム病	1	0	1
45	副腎皮質ジストロフィー	0	0	0
46	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0	0	0
47	脊髄性筋萎縮症	0	0	0
48	球脊髄性筋萎縮症	2	0	2
49	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2	2	4
50	肥大型心筋症	5	5	10
51	拘束型心筋症	0	0	0
52	ミトコンドリア病	0	1	1
53	リンパ脈管筋腫症(LAM)	0	1	1
54	重症多形滲出性紅斑(急性期)	0	1	1
55	黄色靱帯骨化症	4	0	4
56	間脳下垂体機能障害	14	13	27

イ 特定疾患登録者数

平成25年度新規登録者数

疾患名		男	女	合計
総計		2	3	5
1	(1)ベーチェット病	0	1	1
2	(22)後縦靱帯骨化症	1	2	3
3	(55)黄色靱帯骨化症	1	0	1

(2) 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業

先天性血液凝固因子欠乏症として指定された 11 疾患について、医療費を助成し、治療の促進を図るため、申請により先天性血液凝固因子障害等医療受給者証を交付した。

	疾患名	受給者証交付件数
1	第Ⅰ因子(フィブリノゲン)欠乏症	0
2	第Ⅱ因子(プロトロンビン)欠乏症	0
3	第Ⅴ因子(不安定因子)欠乏症	0
4	第Ⅶ因子(安定因子)欠乏症	0
5	第Ⅷ因子欠乏症(血友病A)	2
6	第Ⅸ因子欠乏症(血友病B)	0
7	第Ⅹ因子(スチュアートプラウア因子)欠乏症	0
8	第ⅩⅢ因子(フィブリン安定化因子)欠乏症	0
9	Von Willebrand(フォン・ヴィルブランド)病	2
10	第ⅩⅠ因子(PTA)欠乏症	0
11	第ⅩⅡ因子(ヘイグマン因子)欠乏症	0

(3) 肝炎治療特別促進事業

B 型、C 型ウイルス性肝炎インターフェロン治療・核酸アナログ製剤治療の医療費を助成することで、早期治療を促進し、将来の肝硬変、肝がんの予防及び肝炎ウイルスの感染防止をする。

公費負担医療受給状況:平成 25 年度中

B 型肝炎 75 件(新規 14 件、更新 61 件)

C 型肝炎 32 件(延長 3 件、2 回目 1 件を含む)

### 3 難病在宅ケア事業

管内における患者の実態を明らかにし、個別ケアを中心とした支援活動を充実させながら、在宅ケアを支えていくための医療・保健・福祉を包括したネットワークづくりを目指して各種事業を実施した。

#### (1) 難病地域ケア会議(実務者)開催

在宅難病患者を取り巻く関係者がネットワークを構築することにより、包括的な支援が提供できるようケア会議を開催した。

\* ALS:筋萎縮性側索硬化症

開催年月日 病名・場所	関係機関名	検討内容
H25. 7.16 先端巨大症 (自宅)	地域包括支援センター相談員 介護支援専門員、母・妹 保健所保健師	・医療機関の変更について ・医療機関変更を円滑に進めるための検討
H25.9.20 ALS (自宅)	訪問看護ステーション所長・看護師 介護支援専門員、OT 難病医療専門員、保健所保健師	・在宅医療機関の選択について ・レスパイト入院について ・妻のメンタル面のフォロー
H26.1. 9 ALS (自宅)	CTF松阪、難病医療専門員 本人・家族、保健所保健師	・パソコン操作の困難さに伴う支援について ・操作機器の改善について
H26.1. 15 ALS (自宅)	訪問看護ステーション看護師 介護支援専門員、本人・家族 名張市在宅医療支援センター 難病医療専門員、保健所保健師	介護力アップのために ・介護保険の申請及び利用 ・訪問看護、訪問リハビリの導入について ・ヘルパー導入、ヘルパーへの栄養指導 ・在宅医療の検討
H26.2. 17 ALS (自宅)	訪問看護ステーション看護師 介護支援専門員、家族(娘) 名張市在宅医療支援センター 難病医療専門員、保健所保健師	病状進行に伴う支援の調整について ・病状悪化に伴う夜間の介護について ・介護者の負担軽減について ・緩和ケアについて
H26.3.17 ALS (訪問看護ステーション)	訪問看護ステーションOT CTF松阪2名、本人・家族 保健所保健師	・訪問リハビリの導入について ・訪問リハビリから、病状進行に伴って訪問看護につなげられるように検討
H26.3. 19 ALS (自宅)	訪問看護ステーション所長 地域包括支援センター介護支援専門員 本人・家族	病状進行に伴う支援について ・介護区分の変更 ・訪問看護及び訪問リハビリの導入 ・介護事業所の介護支援専門員の選定 ・介護用具(ベッド・車いす等)について

## (2) 個別ケアの充実

### ア 電話相談・面接相談

申請時手続きの来所者などを対象に面接を実施し、患者家族からの在宅療養上の相談に対応した。必要な人に対して電話相談、面接相談、訪問などを実施するとともに、関係機関につなげた。また特定疾患申請手続き等に関する相談に対応した。

### イ 家庭訪問

患者や家族、医療機関その他関係機関から依頼のあったケースを中心に家庭訪問を実施し、関係機関・関係者と連携して課題の改善のための支援を行った。

#### 疾患別家庭訪問実施状況

疾患名	訪問件数
筋萎縮性側索硬化症(ALS)	実15件／延32件
先端巨大症	実1件／延1件
合計	実16件／延33件

## (3) 訪問療養相談

在宅で寝たきり状態であるために、長期間にわたり専門医の診察や福祉サービス利用・栄養相談等療養上の相談を受けることが困難な患者及び家族に対し、療養生活が適切に行われるよう専門職による訪問療養相談を実施した。

#### 訪問療養相談実施状況

開催月日	平成25年7月16日(火)	平成26年3月25日(火)
対象者	ALSの患者と家族	ALSの患者と家族
スタッフ	神経内科医師・訪問看護師・保健師	管理栄養士・地域包括支援センター保健師 ・保健師

## (4) 事例検討会・研修会等

管内の関係機関、支援者が難病に対する知識と理解を深めることにより個別ケアの充実を図るとともに、患者を取り巻く関係者のネットワーク化を図るため、事例検討会及び研修会を実施した。

### ア 事例検討会

開催年月日 病名・場所	関係機関名	検討内容
H25.9.17 ALS (伊賀庁舎)	居宅介護支援事業所さんぼ倶楽部 訪問看護ステーションおかなみ 保健所保健師	・情報共有 ・在宅医療の導入と救急対応について ・妻のメンタルサポートについて

## イ 研修会

月日 場所	内 容	参 加 者
H26.2.6 県伊賀庁舎 大会議室	講演 (1) 在宅でできる運動療法 ～神経難病患者を中心に～ 講師:訪問看護リハビリステーションささゆり 理学療法士 米澤 秀典 氏 (2) 難病患者の食支援 講師:管理栄養士・介護支援専門員 千歳 泰子 氏 (3) その他 伊賀管内の特定疾患の現状	79人 伊賀管内の介護支援専門員、訪問看護師、訪問介護員、介護施設職員、PT、OT、行政など在宅支援関係者

### (5) その他

ALS 患者の家族が、同じ疾患の家族から話を聞きたいとの希望が介護支援専門員からあり、後のフォローを考慮して ALS の家族だけでなく、介護支援専門員及び保健所保健師の同席のうえで面会できるように調整し対応した。

昨年度の製作された ALS 患者・家族会 (mals の会) の元会長(故人)を取材したドラマ(日生学園制作)教育用 DVD の視聴も行った。

#### 4 臓器移植啓発事業

臓器提供に関する正しい知識の普及啓発を行い、臓器提供意思表示カードの推進を図っている。

##### (1) 臓器提供意思表示カード配布窓口業務

伊賀保健所の窓口において、「いのちの贈りものあなたの意思で救える命」パンフレットと臓器提供意思表示カードの掲示・配布を行った。

#### 5 ハンセン病啓発事業

ハンセン病について正しい知識と理解を持ち、偏見や差別のない、人権が尊重される社会を実現するための啓発を目的として、ホームページにおいて「ハンセン病問題を正しく理解しましょう」を掲載した。

#### 6 骨髄バンク

白血病や再生不良性貧血など血液難病の患者にとって、生への希望である骨髄バンクが円滑に実施されるよう、骨髄移植に関する正しい知識の普及啓発を行い、骨髄提供希望者登録(ドナー登録)の推進を図った。

##### (1) 骨髄提供登録受付窓口業務

毎月第2木曜日に登録受付を実施し、1名の登録があった。

##### (2) 臨時ドナー登録受付の実施

管内6ヶ所の献血会場にて受付を実施した結果、48名の登録があった。



## 134 薬物乱用防止等と医薬品の安全確保

### 13401 薬物乱用防止対策の推進

(主担当:保健衛生室 衛生指導課)

#### 主な取組内容

- 1 不正大麻とけし栽培の取締りを実施します。
- 2 薬物乱用の未然防止をはかるため、街頭における啓発活動等を実施します。
- 3 伊賀保健所内に覚醒剤等相談窓口を設置し、地域住民からの覚醒剤等に関する相談に応じます。

#### 1 薬物乱用防止対策

覚醒剤、麻薬、大麻、シンナーなどの薬物乱用は本人の心身に害を及ぼすことはもちろんのこと、凶悪犯罪を誘発するなど社会的、経済的にも計り知れない害悪を及ぼす。

そのため、県民に、薬物乱用の危害等薬物に関する情報を提供し、乱用防止の重要性についての啓発活動を実施した。

##### (1) 不正大麻・けし撲滅運動

ア 目的 不正大麻・けし撲滅運動期間中に大麻・けしの不正栽培の防止及び野性的大麻・けしを一掃するため、発見除去等に努める。

イ 実施年月日 平成 25 年 4 月 1 日～6 月 30 日

ウ 除去本数 けし 9ヶ所 225 本

##### (2) 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーン

ア 目的 覚醒剤等の薬物乱用は青少年をはじめとして広く県民に広がっている。そのため、青少年を主とし県民に薬物の恐ろしさ、乱用防止の大切さを強く訴え、乱用撲滅への意識の高揚を図った。また、薬物依存者等を支援するため、薬物関連の相談窓口等の充実を図った。

##### イ 実施内容等

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーン			
年月日	実施場所	対象人員	実施内容
平成 25 年 6 月 22 日	伊賀市 アピタ伊賀上野店	2,000	リーフレット・救急絆創膏等の啓発資材の配布
平成 25 年 6 月 22 日	名張市 イオン名張店	2,000	

麻薬・覚醒剤乱用防止運動			
年月日	実施場所	イベント名	実施内容
平成 25 年 10 月 20 日	青山中学校 北部運動公園体育館	三重県スポーツ少年団創設 50 周年初瀬街道ウォークラリー大会	リーフレット・ポケットティッシュ等の啓発資材の配布
平成 25 年 11 月 9 日	崇広中学校	崇広中学校ヒューマンフェスタ	

平成 25 年 11 月 10 日	伊賀市役所青山支所	青山ふれあいまつり	リーフレット・ポケットティッシュ等の啓発資材の配布
平成 25 年 11 月 17 日	比自岐中学校	比自岐ふれあいまつり	
平成 25 年 11 月 30 日	名張市 中町サンロード	隠街道市(名張街道市)	

(3) 覚醒剤等相談窓口業務

平成 25 年度(単位:件)

区分	項目	相談件数	相談内容(内容が複数にまたがるものはそれぞれに計上)				合計
			一般相談	取締・監査等	医療機関	その他	
	覚せい剤	0	0	0	0	0	0
	麻薬	0	0	0	0	0	0
	大麻	0	0	0	0	0	0
	有機溶剤	0	0	0	0	0	0
	脱法ドラッグ等	3	2	0	0	1	3
	その他						